

文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

留学生に対する日本語教師【初任】研修

令和3（2021）年度実施

「留学生に対する日本語教師【初任】研修～日本語教師の実践力を身につける！～」

研修概要

## eラーニング科目

教育内容*	eラーニング科目名	単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年4月時点)
①	留学生教育の変遷と在留資格	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
	法務省告示日本語教育機関の告示基準	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
②	法務省告示日本語教育機関の歴史と現状	1	嶋田和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長
③	日本語能力試験 (JLPT)	1	黒崎誠	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 所長
	日本留学試験 (EJU)	2	黒崎亜美	公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 講師
			早川聡子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 教材開発委員長
			関川貴子	千駄ヶ谷日本語学校 教務部長
ビジネス日本語の試験	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長	
④	日本と海外の教育制度の違い	2	大塚豊	福山大学学長
⑤	キャリア教育	2	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター 教授
	留学生の進学・就職指導	2	勝間田恵美 土田貢之 三澤育代 阿部灯子	千駄ヶ谷日本語学校 専任教員
阪上央成 木島美香 渡邊理恵 高田智之			千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 専任教員	
⑥	異文化間トレランス	2	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
	メンタル・カウンセリング	2	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
⑦	青年期学習者の成長・発達【学習・教育の情意的側面】	2	西谷まり	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター 教授

⑨	留学生のための教材・教具のリソース	4	尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授
⑩	著作権	2	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
⑪	統計処理	4	島田めぐみ	日本大学大学院総合社会情報研究科 教授
⑧	対象レベル別指導法（総論）	2	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
	漢字語彙の指導法	3	小林ミナ	早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
	論文の指導法	3	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
	議論の指導法	3	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	口頭発表の指導法	3	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	評価法	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
	自己点検	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長

\*教育内容の①～⑪は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表14「留学生に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

【各講義の内容】

<b>科目名</b>	<b>留学生教育の変遷と在留資格 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の留学生受入の歴史の変遷について理解する。</li> <li>・主な留学生受入政策とその展開について理解する。</li> <li>・在留資格とは何かについて理解する。</li> <li>・留学生が関わる在留資格について理解する。</li> <li>・法務省の役割と入管法について理解する。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本の社会の動き</li> <li>2.留学生政策と在留資格</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>法務省告示日本語教育機関の告示基準 (1 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告示基準策定以前の状況と策定の経緯が理解できる。</li> <li>・告示基準の主な内容が理解できる。</li> <li>・告示基準改定の主なポイントが理解できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.告示基準策定以前の状況と策定の経緯</li> <li>2.告示基準の主な内容</li> <li>3.告示基準改定の主なポイント</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>法務省告示日本語教育機関の歴史と現状 (1 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	嶋田和子 一般社団法人アクラス日本語教育研究所 所長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学校を社会的な枠組みの中で捉えることができる。</li> <li>・流れの中で日本語学校の社会的役割と存在意義、さらには日本語教師の役割・意義について考えることができる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本語学校の歴史 1990年代まで ～「留学生10万人計画」を軸とした混乱の中で～</li> <li>2.日本語学校の歴史 2000年～2010年 ～激動の中で成長をめざして～</li> <li>3.日本語学校の歴史 2011年以降 ～多様性と広がりの中で～</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>日本語能力試験（JLPT）（1 単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	黒崎誠 公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 所長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験の概要を知る</li> <li>・試験問題で問われる日本語力の内容を知る</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本語能力試験（JLPT）とは</li> <li>2.日本語能力試験（JLPT）の概要</li> <li>3.問題の構成</li> <li>4.問題の出題基準</li> <li>5.日本語能力試験問題例</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>日本留学試験（EJU）（2 単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	黒崎亜美 公益財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所 講師 早川聡子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 教材開発委員長 関川貴子 千駄ヶ谷日本語学校 教務部長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本留学試験（EJU）について理解できる</li> <li>・アカデミック・ジャパニーズについて理解できる</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.日本留学試験（EJU）とは</li> <li>2.日本留学試験（EJU）と大学・専門学校受験の関係</li> <li>3.日本留学試験（EJU）測定能力</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>ビジネス日本語の試験（1 単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労現場で求められる日本語能力の要件が理解できる。</li> <li>・主なビジネス日本語の試験について理解できる。</li> <li>・ビジネス日本語の試験の構成と対策が理解できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.就労現場で求められる日本語能力の要件</li> <li>2.主なビジネス日本語の試験</li> <li>3.ビジネス日本語の試験の構成と試験対策</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>日本と海外の教育制度の違い (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	大塚豊 福山大学学長
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内外の教育制度を比較する前提として、日本の教育制度、特に高等教育制度についての理解を深めることができる。</li> <li>・日本の高等教育機関に留学する上で留学生が知っておくべき制度的特色について理解を深めることができる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.学校制度の変遷</li> <li>2.高等教育制度の改革</li> <li>3.日本の大学入学資格</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>キャリア教育 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	西谷まり 一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における外国人労働に関する議論を把握する。</li> <li>・日本で働く外国人の種類と状況が理解できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.外国人労働に関する議論</li> <li>2.外国人技能実習生</li> <li>3.日本で働くさまざまな外国人</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>留学生の進学・就職指導 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	千駄ヶ谷日本語学校 専任教員 勝間田恵美、土田貢之、三澤育代、阿部灯子 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 専任教員 阪上央成、木島美香、渡邊理恵、高田智之
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の進学の実態を知る。</li> <li>・大学学部・専門学校進学指導の注意点を理解する。</li> <li>・留学生の大学院進学及び就職指導の実際と注意点を理解することができる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.留学生の進学について</li> <li>2.学部進学指導の実際と注意点</li> <li>3.専門学校進学指導の実際と注意点</li> <li>4.大学院進学指導の実際と注意点</li> <li>5.留学生の就職全体に関わること</li> <li>6.就職指導の実際、注意点</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>異文化間トレランス (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間トレランスと異文化間能力とは何かを説明できる。</li> <li>・多文化共生・文化的アイデンティティ・異文化適応・異文化変容についてそれぞれ説明できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.異文化間トレランスと異文化間能力</li> <li>2.多文化共生・文化的アイデンティティとは</li> <li>3.異文化適応・異文化変容とは</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>メンタル・カウンセリング (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルヘルスとは何か事例から理解できる。</li> <li>・異文化適応と症状、メンタルヘルスの予防について理解できる。</li> <li>・留学生にみられる精神障害について理解できる。</li> <li>・カウンセリングとは何か理解し、日本語教師や支援者の役割について理解できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1：メンタルヘルスとケーススタディ（事例）</li> <li>1-2：異文化適応とメンタルヘルス</li> <li>1-3：留学生のメンタルな症状や相談の具体例と予防</li> <li>2-1：留学生にみられる精神障害</li> <li>2-2：カウンセリングとは何か</li> <li>2-3：カウンセリングをどのようにして用いるか</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>青年期学習者の成長・発達【学習・教育の情意的側面】 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	西谷まり 一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構国際教育交流センター教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語不安とリスクテイキングについて理解する。</li> <li>・失敗から学ぶ日本語指導方法について学ぶ。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.言語不安の解釈に着目した日本語指導</li> <li>2.失敗から学ぶ口頭発表の指導</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>留学生のための教材・教具のリソース (4 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	尾本康裕 城西国際大学 留学生別科 准教授
<b>授業の目的・目標</b>	・ 留学生のための教材・教具のリソースについて学ぶ。 ・ 実践的、実用的な知識を習得する。
<b>授業内容</b>	1-1：教材・教具とは何か 1-2：教材について 1-3：基本的ツールおよび役立つサイト 2-1：テクノロジーと日本語教育① 2-2：テクノロジーと日本語教育② 2-3：ICT と教室活動 3-1：日本語教育に役立つサイト① (役立つリンク集、読解で役立つサイト) 3-2：日本語教育に役立つサイト② (オンライン練習作成ソフト&サイト、学習管理サイト) 3-3：オンライン教育の展望 (情報リテラシーの必要性、ウェブに対する意識等) 4-1：オンライン授業について 4-2：対面授業とオンライン授業 4-3：オンライン授業実践のヒント

<b>科目名</b>	<b>著作権 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
<b>授業の目的・目標</b>	・ 日本語教師に必要な著作権の知識を身に付ける。 ・ 著作物の取扱いについて理解し、業務に生かせるようにする。
<b>授業内容</b>	1. なぜ今、著作権が大切に？ 2. 基礎知識チェック 3. 著作権とは 4. 著作権制度の目的 5. 著作物とは 6. 著作者とは 7. 著作者の権利 8. 著作権（財産権）の保護期間 9. 他人の著作物を利用する方法 10. 許諾が不要な場合① 11. 許諾が不要な場合②

	12. 許諾が不要な場合③ 13. 外国の著作物 14. 著作隣接権 15. 教育機関とは 16. 教育機関での複製 17. キャラクター使用 18. 著作権フリー素材 19. 著作権侵害の罰則
--	--

<b>科目名</b>	<b>統計処理 (4 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	島田めぐみ 日本大学大学院総合社会情報研究科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何のために統計分析を行うのかを理解する。</li> <li>・ どのようにデータの特徴を表すか理解する。</li> <li>・ 違う時期のテストをどのように比較できるか理解する。</li> <li>・ テストの種類により分析方法が異なることを理解する。</li> <li>・ 客観テストの基本統計量を計算できる。</li> <li>・ 客観テストの項目分析を行い、解釈できる。</li> <li>・ 主観テストの信頼性の概念を理解する。</li> <li>・ 2変量の関係を表す相関係数を理解する。</li> <li>・ 評定者間信頼性、評定者内信頼性を計算できる。</li> <li>・ 自己評価結果の分析方法を理解する。</li> <li>・ 自己評価結果の妥当性と信頼性を理解する。</li> <li>・ 自己評価結果を利用できるようになる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	1-1.統計的推測と統計的記述 1-2.データの特徴を表す 1-3.異なるテスト結果を比較する (標準化) 2-1.テストの分類 2-2.客観テストの基本統計量 2-3.客観テストの項目分析の方法と解釈 3-1.主観テストの信頼性 3-2.変量の関係を表す相関係数 3-3.評定者間信頼性、評定者内信頼性 4-1.自己評価結果の項目分析 (平均、合計点との相関) 4-2.自己評価結果の妥当性、信頼性 4-3.自己評価結果の教育現場での利用

<b>科目名</b>	<b>対象レベル別指導法（総論）（2単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	小林ミナ 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学習者としての「留学生」の多様性を理解する。</li> <li>・「アカデミック・ジャパニーズ」の概要を知る。</li> <li>・「アカデミック・ジャパニーズ」について深く理解する。</li> <li>・「アカデミック・ジャパニーズ」の実践例を知る。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	1-1.日本語学習者としての「留学生」 1-2.「留学生」の多様性 1-3.多様性への対応とアカデミック・ジャパニーズ 2-1.「アカデミック・ジャパニーズ」とコース・デザイン 2-2.「問題発見解決能力」の養成 3. 「アカデミック・ジャパニーズ」と日本語レベル

<b>科目名</b>	<b>漢字語彙の指導法（3単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	小林ミナ 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「語彙」と「漢字」について理解を深める。</li> <li>・「指導」という観点から「語彙」と「漢字」の関係を考える。</li> <li>・「文法教育」と連動した「語彙教育」の具体的な指導法を知る。</li> <li>・アカデミック・ジャパニーズとしての「語彙教育」のデザインを考える。</li> <li>・「漢字教育」を、「表記」「語彙」の観点から整理する。</li> <li>・コミュニケーション全体のなかで「漢字教育」をデザインする。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	1-1.「語彙」とは何か 1-2.「語彙／漢字」と「4技能」 1-3.「語彙の指導」の留意点 2-1.自己紹介で「という」を使う 2-2.「という」で概念を構造化する 2-3.電子メールに適切な「件名」をつける 3-1.表記としての「漢字教育」 3-2.語彙としての「漢字教育」 3-3.音声コミュニケーションにおける「漢字教育」

<b>科目名</b>	<b>論文の指導法 (3 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	宇佐美洋 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「論文」とはどのような種類の文章であるかを理解する</li> <li>・「いい問い」を立てることの重要性を理解する</li> <li>・「初級」段階でできる教育活動の例を、自ら考えられるようになる</li> <li>・文章の「構成」とは何かを理解する</li> <li>・文章構成の「型」は大切だが、不適切に使われがちであることを理解する</li> <li>・論理的に問題がなければ、それで説得力が出るわけではないことを学ぶ</li> <li>・「論理的」とはということかについて改めて理解する</li> <li>・論証の適切さについて考えるツールとして、「ツールミン・モデル」を理解する</li> <li>・「ツールミン・モデル」の具体的な使い方を考える</li> </ul>
<b>授業内容</b>	1-1.論文とは？ 1-2.「いい問い」を立てよう 1-3.初級段階で「いい問い」を立てるには 2-1.論文の「構成」とは？ 2-2.「型」は適切に使おう 2-3.「論証」と「説得」の違い 3-1.「論理的」ってどういうこと？ 3-2.「論証」に必要なものとは？ 「ツールミン・モデル」について知ろう 3-3.「ツールミン・モデル」を使ってみよう

<b>科目名</b>	<b>議論の指導法 (3 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
<b>授業の目的・目標</b>	日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミック・ジャパニーズとは何かを説明できる。</li> <li>・議論とアカデミック・ジャパニーズの関係を説明できる。</li> <li>・議論の性質を説明できる。</li> </ul> 日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を

	<p>習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議論の構成要素と指導法の概要を説明できる。</li> <li>・議論の評価や学習者の参加について説明できる。</li> <li>・様々な種類の議論の指導法を説明できる。</li> </ul> <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした議論ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初級レベルにおける議論の指導法を説明できる。</li> <li>・中級レベルにおける議論の指導法を説明できる。</li> <li>・上級レベルにおける議論の指導法を説明できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<p>1-1.アカデミック・ジャパニーズとは何か</p> <p>1-2.議論の性質</p> <p>1-3.議論の教育</p> <p>2-1.議論の構成要素と指導法の概要</p> <p>2-2.議論の評価と学習者の参加</p> <p>2-3.議論の種類による指導法</p> <p>3-1.初級レベルにおける議論の指導法</p> <p>3-2.中級レベルにおける議論の指導法</p> <p>3-3.上級レベルにおける議論の指導法</p>

<b>科目名</b>	<b>口頭発表の指導法 (3単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	<p>深澤のぞみ</p> <p>金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授</p>
<b>授業の目的・目標</b>	<p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミック・ジャパニーズとは何かを説明できる。</li> <li>・口頭発表とアカデミック・ジャパニーズの関係を説明できる。</li> <li>・口頭発表の性質を説明できる。</li> </ul> <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭発表の指導法の概要を説明できる。</li> <li>・口頭発表の評価法について説明できる。</li> <li>・口頭発表における学習者の参加の方法を説明できる。</li> </ul>

	<p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初級レベルの口頭発表の指導法を説明できる。</li> <li>・中級レベルの口頭発表の指導法を説明できる。</li> <li>・上級レベルの口頭発表の指導法を説明できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<p>1-1.アカデミック・ジャパニーズとは何か  1-2.口頭発表の性質  1-3.口頭発表の教育  2-1.口頭発表の構成要素と指導法の概要  2-2.口頭発表の評価法  2-3.口頭発表における学習者の参加の方法  3-1.初級レベルにおける口頭発表の指導法  3-2.中級レベルにおける口頭発表の指導法  3-3.上級レベルにおける口頭発表の指導法</p>

<b>科目名</b>	<b>大学院進学希望者への指導法 (3 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	<p>林千賀  城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授</p>
<b>授業の目的・目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院進学希望者の増加傾向について理解できる。</li> <li>・大学院進学のための事前準備について理解できる。</li> <li>・失敗事例と課題から教材について理解できる。</li> <li>・プレアカデミック・スタディプログラムの教材のリソースについて理解できる。</li> <li>・自律学習と教師のアドバイジングについて理解できる。</li> </ul>
<b>授業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院進学希望者の増加とアドバイジングの目的と対象</li> <li>・大学院進学のための事前準備とその心得</li> <li>・失敗事例と課題から教材を考える</li> <li>・プレアカデミック・スタディプログラムとは</li> <li>・プレアカデミック・スタディプログラムプロジェクトワークと研究計画書のアドバイジング</li> <li>・研究計画書・論文を書くための教材</li> </ul>

科目名	評価法 (2 単位時間)
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語教師に必要な、言語テストの基本的な機能と役割、特徴が理解できる。</li> <li>・ 日本語テストが測定可能な日本語に関する知識や運用能力について説明できる。</li> <li>・ 信頼性と妥当性を意識したテストが作成できる。</li> <li>・ 公平な評価を行う際の留意点について理解できる。</li> </ul>
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言語テストの種類</li> <li>・ 教室内・教師作成テストの目的</li> <li>・ よいテストの基本要件</li> <li>・ 言語テストの条件</li> <li>・ テストの種類／分類の視点</li> <li>・ テストの目的</li> <li>・ 教師作成テストの実際</li> <li>・ 評価方法はどうしたらよいのか</li> <li>・ テストの可能性と限界</li> <li>・ 日本語力レベル</li> <li>・ 測定対象知識・能力／出題形式／解答形式／課題</li> <li>・ 言語テストの形式と採点方法</li> <li>・ 言語テストの対象領域</li> <li>・ テスト作成の実際</li> <li>・ 教授項目中心テストの問題点</li> <li>・ テスト開発における留意点</li> <li>・ テスト得点に影響を与える要因</li> <li>・ 評価はテストだけではない</li> <li>・ 評価における最近の動向</li> <li>・ 代替アセスメント</li> <li>・ 評価方法の多様化</li> <li>・ よりよい教育実践のために</li> </ul>

<b>科目名</b>	<b>自己点検 (3 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長
<b>授業の目的・目標</b>	教師として成長するために、日本語教育の専門家の立場から、自己点検を適切に、かつ、継続的に行う力を身につける。 〔「自己点検 1」の目標〕 ・現場で望まれる教師について知る。 ・教師として成長するためのフレームワークと自己点検の位置づけを知る。 ・自己点検表について知る。 〔「自己点検 2」の目標〕 ・【資料 2】「自己点検表－授業－」の点検項目について理解を深める。 ・【資料 3】「自己点検表－教師としての取り組み」の点検項目について理解を深める。 ・専門的な立場から、自律的に自己点検が行う力を身につける。
<b>授業内容</b>	1-1.現場で望まれる教師と自己点検の目的 1-2.「自律的成長型教師」について 1-3.他の教師モデルと「自律的成長型教師」 1-4.成長のためのフレームワークと自己点検表 2-1.「自己点検表－授業－」 2-1-1.「自己点検表－教師としての取り組み」 2-1-2.自己点検表とポートフォリオ 2-3.教育の現場での事例

## オンライン参加型研修

教育内容 *	オンライン参加型研修	単位数	自己研修 単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年4月時点)
⑤	留学生の就職指導	2		小田金欣也	株式会社ベスト・コミュニケーションズ 総務部長
⑥	メンタル・カウンセリング	2		林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
⑨	留学生のための教材・教具のリソース	2		尾本康裕	城西国際大学 留学生別科 准教授
⑧	論文の指導法	2	2	宇佐美洋	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
	議論の指導法	2	2	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	口頭発表の指導法	2	2	深澤のぞみ	金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
	音声の指導法	2		生方哲男	東京中央日本語学院 教務部長
	評価法	4		伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
	ケーススタディ	4		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
	自己点検	2	6	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
振り返り	2	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長	

\*教育内容の ①～⑪は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表14「留学生に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

【各講義の内容】

科目名	留学生の就職指導 (2 単位時間)
担当講師	小田金欣也 株式会社ベスト・コミュニケーションズ 総務部長
授業の目的・目標	留学生への就職始動の流れと留意点を理解し、実践につなげようという気構えを身に付ける。
授業内容	日本の就職活動を理解する 1. 就職活動のスケジュール 2. 選考方法 日本語レベルの重要性、在留資格の変更、個別スケジュールの設定、活動方針の決定

科目名	留学生の異文化受容・適応 メンタル・カウンセリング (2 単位時間)
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
自己研修課題 (事前課題)	課題 1：勤めている学校では、どのような支援があるか。紹介してください。 課題 2：あなたの勤める日本語学校や日本語教室で、先輩の先生や事務局から見聞きした日本語学習者のメンタルヘルスの事例はどんなケースがありましたか。2 事例ほど、集めておいてください。 課題 3：あなたが担当する学生の行動や言動が最近、変だと感じるようになりました。あなたは、何をすべきですか。考えておいてください。
授業の目的・目標	「メンタルヘルス」について考える
授業内容	1. 「メンタルヘルス」と異文化コミュニケーション 2. ワークショップ ディスカッション 1、2、3 3. 振り返り

科目名	メディアリテラシーと情報—留学生のための教材・教具のリソース (2 単位時間)
担当講師	尾本康裕 城西国際大学 留学生別科 准教授
授業の目的・目標	オンライン授業とそのツールについて学ぶ
授業内容	1. オンライン授業について簡単に解説 2. オンライン授業を行うツールについて解説

	<p>ウェブ会議ツール（Webex、Zoom、teams など）</p> <p>3. オンデマンド型授業のためのツールについて解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ youtube の動画の利用、パワーポイントに音声を挿入、簡単な記入可能な pdf</li> <li>・ フォームについて</li> <li>・ Google フォーム、マイクロソフトフォームについて解説</li> <li>・ 中国でも使えるツールについて</li> </ul> <p>4. 作成方法について簡単に学ぶ</p> <p>5. 採点方法、集計について簡単に解説</p> <p>6. まとめ</p>
--	---

<b>科目名</b>	<b>演習 論文の指導法</b> <b>（オンライン参加型研修 2 単位時間／自己研修 2 単位時間）</b>
<b>担当講師</b>	宇佐美洋 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
<b>自己研修課題</b> <b>（事前課題）</b>	<p><b>【課題 1】</b></p> <p>「論文の指導法 1」の講義のなかで、「いい問い」を立てることの重要性について述べました。講義で述べている「いい問い」の条件を踏まえながら、「初級後半から中級前半にかけての段階で作文を書いてもらうにあたっての、『いい問い』を含んだ作文課題の例」を具体的に考えてみてください。また、その課題が備えている特徴や、課題を考えるにあたって工夫したことなどを具体的に挙げたうえで、それがなぜ「いい問い」と言えるのかの理由を書いてください。</p> <p>※「初級後半から中級前半」とは、「日常的で具体的な文脈における単純なタスクであれば、独力で、あるいは周囲からの手助けを借りながら遂行可能なレベル」を指します。</p> <p>※課題の文は、上記レベルの学習者に十分理解できるような表現・表記で書いてください。（「いい問い」といえる理由についてはその限りではありません）。</p> <p><b>【課題 2】</b></p> <p>「論文の指導法 1～3」の講義を視聴して考えたこと、感じたことや、担当者に対する質問等を自由に書いてください。</p>
<b>授業の目的・目標</b>	<p>1. ある問いについて答えようとすることで、問われた者にはどのような思考が起こるのかを、受講者自身が考えた「問い」に実際に答えてみることで体感する。</p> <p>2. 問いに対する答えが他者にどのような気付きをもたらすのかについて話し合い、「いい問い」の意味について理解を深める。</p>

<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前課題として挙げた『『いい問い』を含む作文課題』からいくつかのものを選び、その課題に対して具体的な回答を書いてみる。</li> <li>2. 「問いに対し楽しみつつ答えることができたか」「実際に書かれた回答は、読み手の関心を引くものになっていたか」について、小グループに分かれて話し合う。</li> <li>3. 「いい問い」とはどのような問いであるかを、自分のことばでまとめ直すとともに、「いい問い」を立てるためにはどのような工夫が必要になるかについて、気づきを共有する。</li> <li>4. その他、事前課題として提示された「講義内容への質問」に対し、適宜回答するか、あるいはその質問について、「自分ならどう回答するか」を小グループで話し合う。</li> </ol>
-------------	--

<b>科目名</b>	<b>演習 議論の指導法</b> <b>(オンライン参加型研修 2 単位時間／自己研修 2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
<b>自己研修課題</b> <b>(事後課題)</b>	参加型研修中にグループで考えた議論のテーマのうちの1つを用いて、実際の授業計画を立てる。1枚のスライド(パワーポイント)にまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初中級レベルのクラス(20人)で、3コマ(45分×3コマ=3単位時間)を上限とする。必要に応じて、宿題を出してもよい</li> <li>2. 授業コマごとに学習者が何をするかをまとめて記述。</li> <li>3. 留意すべき点や評価の仕方にも簡単に触れる。</li> </ol>
<b>授業の目的・目標</b>	議論の指導法の基礎を確認した上で、実際に実施する授業計画案を作成する。
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. eラーニングで学んだ基礎事項の確認。(15分程度)</li> <li>2. 留学生に対する指導では、初級、初中級から「議論」を授業に取り入れていくことが重要であることを確認し、指導法の工夫で、十分に可能性があることを伝える。(10分程度)</li> <li>3. 初中級レベルのクラスでできる「おすすめの議論テーマ」を2つ、ブレイクアウトルームで検討し、提案する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレイクアウトルームは、5人×4グループ(1つのグループは6人)。司会と書記を最初に選んでもらい、検討開始。(出入りも含め25分)</li> <li>・テーマの1つは賛否が分かれるテーマ、もう1つは自由テーマ。テーマを決めた理由も。</li> </ul> </li> <li>4. ブレイクアウトルームを出てきて、グループで考えたテーマを発</li> </ol>

	表し、皆で共有。(10分) 5. 講評とまとめ (20分) 6. 課題の説明と質疑応答 (10分)
--	---

<b>科目名</b>	<b>口頭発表の指導法</b> (オンライン参加型研修 2 単位時間 / 自己研修 2 単位時間)
<b>担当講師</b>	深澤のぞみ 金沢大学 人間社会学域 国際学類 日本・日本語教育コース 教授
<b>授業の目的・目標</b>	<p>演習</p> <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミック・ジャパニーズとは何かを説明できる</li> <li>・口頭発表とアカデミック・ジャパニーズの関係を説明できる</li> <li>・口頭発表の性質を説明できる</li> </ul> <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭発表の指導法の概要を説明できる</li> <li>・口頭発表の評価法について説明できる</li> <li>・口頭発表における学習者の参加の方法を説明できる</li> </ul> <p>日本の大学や大学院等への進学や、高度人材としての就職を目指す留学生に、しっかりとした口頭発表ができるような実践的な日本語運用力を習得させる。そのために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初級レベルの口頭発表の指導法を説明できる</li> <li>・中級レベルの口頭発表の指導法を説明できる</li> <li>・上級レベルの口頭発表の指導法を説明できる</li> </ul>
<b>授業内容</b>	1-1. アカデミック・ジャパニーズとは何か 1-2. 口頭発表の性質 1-3. 口頭発表の教育 2-1. 口頭発表の構成要素と指導法の概要 2-2. 口頭発表の評価法 2-3. 口頭発表における学習者の参加の方法 3-1. 初級レベルにおける口頭発表の指導法 3-2. 中級レベルにおける口頭発表の指導法 3-3. 上級レベルにおける口頭発表の指導法

<b>科目名</b>	<b>演習 音声の指導法 (2 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	生方哲男 東京中央日本語学院 教務部長
<b>事前課題</b>	事前の提出は不要。授業内で意見交換をするため、授業までに各自準備しておく。 【課題の内容】 1. 日本語の発音について考えたり調べたりしてみてください Q: 日本語の発音は、簡単である・難しい。 Q: 日本語のアクセントにはどんな機能がありますか。 2. 日本語学習者の発音について考えてみてください Q: 日本語学習者への発音指導は、必要である・必要ではない。 Q: 日本語学習者は発音指導を、必要としている・必要としていない。 3. 日本語の発音指導を行う際について考えてみてください。 Q: 発音指導を行う場合、いつから行うといいと思いますか？ その理由は？ 1) 初級 2) 初中級 3) 中級 4) 上級
<b>授業の目的・目標</b>	発音指導をする際に、どんな知識が必要で、どこに気をつけてどのように指導をするかというのを理解し、身につけてもらう。
<b>授業内容</b>	1. アイスブレイク：自己紹介と事前課題について意見交換 2. 単音（母音・子音）について 3. リズムについて 4. アクセント(単純語のアクセントと複合語のアクセント)について 5. イントネーションについて 6. 発音指導・発音練習について

<b>科目名</b>	<b>演習 評価法 (4 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
<b>自己研修課題 (事前課題)</b>	【課題1】過去に受験したテストの中で、「いいテスト」「悪いテスト」とは、どんなテストでしたか。具体的に記述（箇条書き）して、事前に提出してください。 【課題2】テスト問題を作るために、どんな留学生にどんな日本語を教えることになるかを想定した上で、学習目標を「Can-Do（～できる）」の形で記述して、事前に提出してください。
<b>授業の目的・目標</b>	e ラーニングで学習した理論面の知識を、実際のテスト作成に活用することを目的とし、評価リテラシーの向上をめざす。

<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前【課題1】について共有し、信頼性・妥当性・実用性の概念について確認する。</li> <li>2. 事前【課題2】について共有し、教育目標を念頭においたテスト開発の大切さを理解する。</li> <li>3. パフォーマンステストである OPI の音声を聴いて、学習者の日本語能力の測定を試みる。その際に評価の観点、評価の基準、また評価の方法をどのようにするかを考察し、将来のテスト作りのヒントを得る。</li> <li>4. 代替アセスメントの目的について共有する。</li> </ol>
-------------	---

<b>科目名</b>	<b>演習 ケーススタディ 1、2 (4 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
<b>授業の目的・目標</b>	教育現場における「実践力」を向上させるために、授業を分析する視点を養う。
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 熟達した教師と初任の教師との視点の違いについて解説する。</li> <li>2. 全養協「日本語教師検定」で出題された授業映像視聴問題の映像を用いて実際に授業分析を行う。</li> <li>3. 個々に映像の授業の問題点を整理した後、グループでその問題点について意見交換、及び検討を行う。</li> <li>4. グループワークで確認された授業の問題点、及び、検討結果を発表する。担当講師がそれらに対してフィードバックをする。</li> <li>5. 授業のまとめ</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>自己点検 (オンライン参加型研修 2 単位時間／自己研修 6 単位時間)</b>
<b>担当講師</b>	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
<b>自己研修課題 (事前課題)</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の授業を録画する。 ※日本人を学生役にした模擬授業も可 ※録画する授業のコマ数は自由</li> <li>2. 録画した授業を視聴し、eラーニング教材「自己点検1・2」の【資料2】「自己点検表－授業－」を用いて自己点検を行う。</li> <li>3. 自己点検を行った「自己点検表－授業－」はメール添付で提出する。</li> <li>4. ②で行った自己点検から自身の授業の問題点を洗い出し (See)、改善計画を立て (Plan)、その計画を実行する (Do)。 ※計画の実行 (Do) ができない場合は、改善計画を立てる。</li> </ol>

	※ (Plan) ところまででよい。
<b>授業の目的・目標</b>	日本語教育人材に求められる資質・能力を把握しながら、成長し学び続けられる日本語教師について考える。
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>自身の授業の問題点とその問題点をどのように改善したか／改善しようとしているか自身のPDS) について情報を共有する(グループワーク)。</li> <li>各グループで共有された内容の発表、講師からのフィードバック</li> <li>【資料2】「自己点検表－授業－」を用いて、教師として成長するために留意すべき点について確認する。</li> </ol>

<b>科目名</b>	<b>演習 振り返り</b> (オンライン参加型研修 2 単位時間／自己研修 2 単位時間)
<b>担当講師</b>	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
<b>自己研修課題</b> (事前課題)	修了レポート「研修を通して学んだこと」を作成する。 ※字数 1200字～1600字 ※修了レポート(2単位時間)は修了要件の一つである
<b>授業の目的・目標</b>	教師としての在り方、および、教師としての成長の方向性を考える。
<b>授業内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれ、「演習 振り返り」の課題である研修レポートに自身が述べた内容について、グループで情報共有を行う。</li> <li>グループで共有された情報(特徴的なもの)について発表する。</li> <li>研修レポートについて担当講師からのフィードバック 〔レクチャー〕</li> <li>もう一つの自己点検 「自己点検－教師としての取り組み」の点検項目について</li> <li>成長し続けるために</li> </ol>